

検査のパレット

今回は虫卵検査・ノロウイルス・ロタウイルス・CD チェック・ESBL 産生菌についてお話しします

1. 虫卵検査について

最近では海外旅行先(おもに発展途上国)で食べ物や水から感染、生野菜(有機野菜など)の摂取、ペットからの感染が原因で寄生虫病が増えてきています。寄生虫は食べ物とともに卵や幼虫の状態で人体に入り臓器のなかで増殖し幼虫の一部や卵が便に混ざって排出されます。便を顕微鏡で観察することで感染の確認ができます。寄生虫病にならないためには**生野菜を十分水洗すること、海外旅行先で生肉や水などむやみやたらに飲食しないよう十分気をつけて予防することが重要**です。

2. ノロウイルス検査について

ノロウイルスは人の腸管内のみで増殖し、おもに回腸で増えるため下痢、嘔吐を主徴とする胃腸炎を起こします。年間を通して感染報告がありますが、主に**冬期に流行し集団感染の恐れがあるウイルス**です。診断は便中のノロウイルスを確認することで確定されます。**保険適用でないため検査料が自費**です。

院内迅速検査—1 時間程度で検査可能です。感度的には 70% 程度ですが下痢、嘔吐の症状がある(2000 円) 場合ウイルス量が増大しているため**陽性の確認検査**として利用されます。

PCR 検査— 外注検査で専用容器に採便します。検査は 1 週間かかりますが感度が高いため(8000 円) **陰性の確認検査**として利用されます。

3. ロタウイルス検査について

1 月から 4 月にかけて流行し、おもに 6 ヶ月から 2 歳の乳幼児に多くみられる腸管の感染症です。嘔吐と酸臭のする米のとぎ汁のような白色の下痢便が特徴です。また発熱を伴う場合もあります。診断は便中のロタウイルスを確認することで確定します。

4. クロストリジウム・ディフィシル(CD チェック) 検査について

抗生物質の投与に持続する下痢症、偽膜性大腸炎の原因菌です。もともと腸内常在菌ですが、抗生物質が効かないため他の菌が死滅するとこの菌だけが生き残り異常増殖し、毒素を産生するようになります。この菌は**高齢者や長期入院患者、抗癌剤投与中の患者などで院内感染の原因菌**として注目されています。菌が産出する毒素と反応させて検査するため**新鮮で十分な検体量が必要**です。

1~4 はいずれも**便を直接提出**して下さい。採便が困難な場合は検査部へ相談して下さい
なお**専用綿棒を直接肛門に刺す**ことは、検査結果が**不正確**になるのでおすすめできません。

最近 **ESBL(βラクタマーゼ)産生菌**および**メタロβラクタマーゼ産生菌**が報告されるようになりました。ESBL とは抗生物質の中の第 3 世代セフェム薬を分解し効かなくなる特殊な酵素のことです。またメタロβラクタマーゼ産生菌はカルバペネム剤も分解してしまいます。主な ESBL 産生菌は**大腸菌、肺炎桿菌**で、メタロβラクタマーゼ産生菌は**緑膿菌、セラチア菌**です。これらの菌は腸管内に保菌され、**院内感染**の原因菌となっています。また**エンドトキシン**という強力な毒素を産生するため重篤化する場合があります。耐性菌になるため長期の抗生剤の使用は問題です。適切な薬剤を薬剤感受性試験で見出し、適切な使用をお願い致します

2 回にわたって便について記載させていただきました。次回は輸血について記載します。
今後とも検査室を宜しくお願い致します。

文責：白濱小百合
監修：石竹 久仁